

家族は永遠に一緒にいることができるのか？

Adapted from an article by the Institute for Religious Research and used with permission
Copyright © 1994 Institute for Religious Research

末日聖徒イエス・キリスト教会（通称モルモン教会）は、男女が神殿で結婚するならば、家族は永遠に一緒に暮らすことが可能になる、と教えています。そのためには、モルモン教会員の当面の目標は「完全な者」になることで、マタイの福音書5章48節を真面目に考慮しているのです。モルモン教徒の究極の目標は「神々になる」ことです。広報活動を意識してモルモン教会は「神々になる」という教えを控えめに扱ってきていて、今日のモルモン教徒は「神々になる」の話をする代わりに、「永遠の命」や「永遠の家族」という話をします。また、「わたしたちは天の御父と同じようになれることができる」と述べたりします。しかし、モルモン教会の教義では、「永遠の命」と「永遠の家族」を得るためには、信者は神にならなければなりません。

モルモン教会の正典の一つの『教義と聖約』132:19,20は、忠実な信徒の最終の運命を明確に述べています^a。モルモン教会の公式学習用テキスト『福音の原則』（2003年、300頁）は、「昇栄」（注：天の最高の王国「日の栄光」で神々となること）した人々に与えられる特別な祝福を教えています。

1. 天の御父とイエス・キリストのもとに永遠に住む（教義と聖約76章参照）。
2. 神々となる。
3. 義にかなった自分の家族とともに住み、霊の子供をもうけることができる。わたしたちとこれらの霊の子供たちとの関係は、現在の天の御父とわたしたちとの関係に等しく、永遠の家族となる。

「永遠の命」（「昇栄」）を受ける者だけが「永遠の家族」を持つことができ、「霊の子供」を出産し永遠に増え続けるそうです^b。モルモン教会の「永遠の家族」の教えは、最近愛する家族の一員を亡くした方や、これから初めてのお子さんをもうける方には魅力があるかもしれません。家族は永遠に一緒にいることができるのでしょうか。この質問に関して *Are Families forever?* (Institute for Religious Research) という文章にでくわしました^c。この記事を改善できるわけはありませんので許可を得て以下に掲載しました。

私たちは一人残らず家族の一員です。家族はアイデンティティ、安定性、所属感を与えてくれます。家族は社会の基本的単位であることに疑いの余地はありません。モルモン教会は家族単位が永遠に続くことを可能にする特別な儀式を提供している、と主張してします。これは本当に可能なのでしょうか。

モルモン教会は家族生活と、地上の家族関係はこの世から来世にわたって永遠に続くという教えを強調しています。事実、モルモン教会の公式な学習テキストの『福音の原則』は次のように述べています。「家族は永遠に一緒にいることができる。この祝福を享受するためには、神殿結婚をしなければならない…主の戒めに従うならば、家族は夫、妻、子供として永遠に一緒にいられるのである」¹

このようにモルモン教徒は、夫婦が永遠に一緒にいることができるばかりか、子供も両親と永遠に一緒にいることができるとも教えられています。

『福音の原則』の後の章では「子供たちと永遠に一緒にいられるということを知る」と述べています²。天の御父は、かつては死を免れない人間でしたが、次第に進化して神となり、女神の妻とともに世界を統治している、と末日聖徒は教えられています³。信者は神々、女神となり、天父がこの世界を統治しているように、最終的には自分たちの世界を支配する事を望みとします。世界を支配しながら全家族と一緒にいられることを期待しているのです。こういうわけで末日聖徒は「家族は永遠に続く」というテーマを強調するのです。

この教えは魅力的でしょう。少なくとも表面的にはです。事実、モルモン教会は神殿結婚した夫婦は、この世から永遠にわたって結ばれているのに対して、モルモン教会以外の牧師による結婚式は死によって終わるので劣っている、と見なしています。しかし、モルモン教理には論理的にも、聖書的にも問題があります。

どういう意味でしょう。モルモン教徒の両親は子供が神殿で育ち、神殿結婚をし、神々へと「昇栄」して欲しいと願っています。しかし、モルモン教会を去る子供もいます。そのような子供は「日の栄えの王国」で両親と一緒に暮らすことはない、ということの意味します。モルモン教会を去った子供は、親と永遠に分け隔てられることとなります。一方、神殿結婚しない子供もいるでしょう。そのような子供も神々、女神にはなれませんが、「日の栄えの王国」で最高の階級を受け継ぐことはありません。神殿結婚しない子供もまた両親から切り離されるのです。

モルモン教会の教えに忠実で神殿結婚をした子供はどうなるのでしょうか。モルモン教会によると、そのような子供はまことに神々、女神になるそうです。このことを少し考えてみましょう。モルモン教理では、神々、女神になると、各自が監督すべき世界が与えられるのです。このことは、両親とは全く異なる宇宙に存在することもあることを意味しています。モルモン教の教えによると、神々、女神の目標に達すると、もはや天父やほかの家族とは永遠に住むことはできないということです。代わりに各自の「霊の子」の天父と天母になるそうです⁴。モルモン教会は、地上の家族関係を手本として永遠を想像しようとしているので、私たちが地上で経験する同じ問題に直面します。子供は成長し、結婚し、引越してゆき、各自の子供を持ち、その子供たちは成長し、結婚し、引っ越してゆくというわけです。

しかし、結婚に関するモルモン教会の教えは、聖書の教えの基準にも達していません。家族関係は流動的で絶えず変化しています。イエスの時代の、「復活ということはない」と信じていたサドカイ人はこのことを認識していて、イエスをわなに掛けようとした。マタイによる福音書 22 章 23–28 節でサドカイ人はイエスに、こう質問しています。

先生、モーゼはこうっています。「もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめぐって、兄のために子をもうけなければならない」さて、わたしたちのところに、七人の兄弟がありました。長男は妻をめぐって死んでしまい、そして子がなかったので、その妻を弟に残しました。次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。最後にその女も死にました。すると復活の時には、この女は、7人のうちだれの妻なのでしょうか。みんながこの女を妻にしたのですが。（口語訳）

イエスはどうか答えたのでしょうか。「あなた方は聖書も神の力も何も知らないから、思い違いをしている。復活の時には、彼らはめとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使いのようなものである」と実直に述べています。言い換えると、**聖書は、天国では結婚関係は問題にはならないと教えているのです。**イエスは神の家族は人間関係よりも優位にたつと教えています。マタイ 12 章 46–50 節でイエスが群衆に教えているとき、群衆の中のある人がイエスの母と兄弟達がイエスに話そうと思い、外に立っていることを知らせました。イエスは「私の母とはだれのことか。私の兄弟とはだれのことか」と答えています。弟子達の方に手をさし伸ばされて、こう言われました。「ごらんください。ここに私の母、私の兄弟がいる。天にいます私の父のみこころを行う者はだれでも、私の兄弟、また私の姉妹、または母なのである」

イエスは十字架につけられて死につつあるとき、霊的家族関係は純粋な血肉の関係より重要なことを再び強調されました。ヨハネによる福音書 19 章 26、27 節でイエスは母が使徒ヨハネのそばに立っているのをごらんになって、母に「婦人よ。ごらんください。これはあなたの子です」と言われました。ヨハネには「ごらんください。これはあなたの子です」と。イエスは血肉を分け合った弟にではなく、ご自分の母を弟子のヨハネの保護のもとに託されたのです。ヨハネは、イエスはキリストと信じていましたが、弟たちは、まだイエスはメシア(救世主)と信じるにいたっていなかったのです。いったん神の御前にでると私たちの焦点はひとりひとりの神との関係に合わされて、賛美、礼拝、栄誉を捧げることになるのです。

聖書によると、各々の罪を悔い改め、イエスを信じることで罪を赦され、永遠の命を賜物としていただいた家族のものは、永遠に一緒に暮らすことができるのです。神の臨在のもとでは、夫とか父、甥や姪とではなく、天の父の養子ととして肩を並べて立つのです。一つの神の家族として結合し、唯一の焦点は天の父を礼拝することで、永遠に神と生きられる祝福を享受するのです。

これは、家族は事実分裂し、永遠にわけ隔てられるというモルモン教理の論理的な帰結とは全くの対照をなしています。「家族は永遠に一緒にいることができる」は、人をひきつけるスローガンですが、モルモン教理では実際は違う結果になります。

脚注

1 『福音の原則』2003年、230頁

2 同上、241頁

3 *Achieving a Celestial Marriage*, Student Manual, 1976, p. 129.— モルモン教会の公式学習用テキスト

4 同上、302頁。

序文の注

a 『教義と聖約』132:20 「それで、彼らは神々となる。彼らには終わりが無いからである。それゆえ、彼らは続くので永遠から永遠に至り、すべてのものが彼らに従うので、彼らはすべてのものの上にあるであろう。それで、彼らは神々となる。彼ら是一切の権威を持ち、天使たちが彼らに従うからである」

b モルモン教徒ブルース・R・マッコンキー、『モルモン教義』（238頁）は、モルモン教会の公式刊行物の *Achieving A Celestial Marriage* に引用されている、135、136頁）

c The Institute for Religious Research は特定の宗派にこだわらない非営利のキリスト教組織で、様々な宗教的主張を歴史と聖書を考慮した研究に献身している (<http://www.irr.org/>)。